

温暖化に瀕する群生地

プラントピアのカキラン群生 (福井県越前町・プラントピア)

カキランは日本の野生ランの中でも人気の山野草で、筆者のテリトリーでも群生地が三ヶ所もあった。最も大きい群生地は、地元の愛好家の知る所となり、乱獲の末絶滅した。もう一ヶ所は、簡単に辿り着けない場所にあったが、湿地のため、近年増殖した猪のぬた場となり、これもあえなく絶滅した。最後に残った一ヶ所は、こんな所にという隠れた場所にあったが、近年の温暖化で湿地が少なくなり、笹が進入して、ここでも絶滅。この間、たったの十年程であろうか。

福井県にプラントピアという、自然を生かす形で保全した植物園がある。越前海岸からほど近い山地で、小さな谷に、カキランやサワギキョウが群生していた。この谷を守る事を中心にして、作られたものである。

今から 20 年程前、若杉孝生園長と懇意になり、当を開催したボタニカルフォト作品の展示会を開催して頂

く事となった。現在も毎年続いている。園内にカキランの大群生がある事を知ったのは数年前で、これを山野草の専門誌に紹介するために撮影したものが、掲載写真である。

実に見事な群生で、幅 10m 程の湿地全体にカキランが群生している。これ程のものは、初めての経験であった。しかし、花が小さいので、撮影はなかなか大変である。

2018 年の夏は記録的な暑さで、自宅の庭の花たちも随分枯れた。聞けば、近くの湿地園に生育するカキツバタやハナショウブが壊滅的になったという。プラントピアのカキランも心配になって聞けば、やはりである。刻々と迫ってくる温暖化現象は、やはり避けては通れない宿命なのだろう。



加佐ノ岬のカキラン。2020 年に新に発見した生育地。すぐ真下が日本海という、珍しい場所にあった。